

任せることのススメ

皆さんは幼かった頃、家庭の中で自分が任されていたことはありますか？
私は幼稚園の頃は毎日、ポストに新聞を取りに行くことと、玄関の掃き掃除を任されていました。
今回は、任せる際のポイントなどをお話しします。

●何を任せる？●

子どもに任せる事柄は、日常の小さなことで十分です。
例えば、着ていく服を自分で選ぶ、電気をつけたり消す、ごみを集める、絵本をきれいに揃える、洗濯物のタオルを畳むなど。



このように日常の小さなことを任せていきながら、少しずつ難易度をあげていったり、任せる量を多くしていくと良いと思います。

●任せるコツ・ポイント●

① その子が本当に出来ることなのかを見極める。

子ども自身が自分で出来るという自信のあることから任せましょう。
失敗しても良いのですが、『任せる』という目的においてはある程度、本人が出来ることを任せる方が、より自信となり、その後も自主的に挑戦したり行動するようになります。



② 子どもを信じる

子どもは任されたことを誇りに思い、一生懸命達成しようとしています。
そんな時に途中であれこれ口を出し過ぎてしまうと、せっかくのやる気が半減してしまう・・・
なんてこともあるかもしれませんね。
例えば行程を一緒に確認してから子どもにしてもらおう、というやり方もありますが、既にある程度出来ることなら任せた方がいいです。
子どもによっては「あれ？ホントに任せてくれてる？」と身構えてしまいますし、やって楽しいと言うより『完璧にこなさなくてはならない』という気持ちになり、任されることが苦痛に感じてしまうかもしれません。
頼んだのであれば子どもを信じて任せきる、というスタンスも大事にしながら途中で助けを求められた時には、答えましょう。



③ 任せたことの確認はする

任せたことが完了した！という際は、必ず一緒に確認しましょう。
「ばっちり出来てるね～。助かったよ。またお願いしたいな」など、やったことを認めた声掛けがいいと思います。
この時、過度に褒めることはしなくても良いと思います。
褒められるために頑張るのではなく、任せられて出来たことや、誰かの役に立つ喜びを感じてほしいからです。



もし間違っていたり中途半端で終わっている場合は、一緒に振り返りながら完了させるといいです。

また、完了していないことを子ども自らが気づくことも大切なので、本人が気づくような声掛けをすることも大事です。

●自分で決める大切さ●

人の人生は「選ぶ」ということの繰り返しですね。

自分で選ぶということを大事にしてほしい理由としては、次のことが考えられると思います。

① 自立心を育む

自分の意思で行動したり意見を伝えることで、自分に自信が持てるようになります。

自信がつけば、自分で何でもやってみよう、と挑戦する気持ちも出てきます。

「自分で出来る！」ということは子どもにとって、本当に誇らしいことなのです。

② 自己肯定感を高める

自分で選択したことが成功することで、自己肯定感が高まります。

もし失敗したとしても、それを乗り越えるという経験もまた、自己肯定感が高まることにつながります。

失敗をどう考え、どう乗り越えるか？という経験をたくさん積み重ねていくことが大事なので、そのチャンスを作るのも私達大人なのではないでしょうか。

さて、【任せること＝大人も子どもも互いに信じあう】これが大事かもしれませんね。

子どもも、任されることで自分が家族の一員であるということを自覚していきます。

家族は誰か一人が頑張るのではなく、それぞれ自分が出来ることをやるのがいいですね。

モンテッソーリ教育では、「子どもは出来ないのではなくやり方を知らないだけ」という言葉があります。

やり方を伝えていくことは、時間も忍耐も必要かもしれません。

ただ子どもにとっては、やり方をマスターするまでの道のりの中で、戸惑ったり達成感を味わったりすることは成長の上でとても貴重な体験です。

『自分のことが自分で出来る』が増えていくことで、子どもの目はキラキラ輝いていきます。

私は、子ども達が大人になった時に「あの人に任せたい！」と言われる人になってくれたら嬉しいなと思っています。

たくさんの実体験をして自信を持ってもらい、自分の力で自分の人生を切り開いていける・・・、そんな大人になってほしいですね？

そのために、今から少しずつ【任せる】ことを意識してみませんか？

(岩澤)